

獣害対策マニュアル ワイヤーマッシュ

ワイヤーマッシュ（溶接金網）は、強度と高さにより、動物の侵入を防ぐ物理柵です。

適切に設置されていないと、破壊やもぐり込み、跳び越えによって侵入される事があります。

また、適切に管理されていないと、ツルの絡まり、倒木、積雪により、破損する事があります。

物理柵は、強度と高さを維持するため、定期的な管理が重要です。

設置のコツ！ 定期的な管理を前提に、設置計画！！

ワイヤーマッシュは物理柵です。

- 動物も人も通りにくい。
- 金属なので、資材が重い。

設置・管理しやすいルート選定

接合部は、重ね合わせて、支柱と固定

柵の外と内に管理道を設置

下部は地面に差し込み、アンカーで固定

雑草や、周囲のやぶの刈り払い

水路・溝、凹地もすき間をつくらない

縦線は外側に向けて設置

設置が終わると、再度、柵の点検

京都府では、地域ぐるみで取り組む野生鳥獣被害対策を推進しています。本資料の内容に関する問い合わせや、野生鳥獣被害対策の技術的な支援等が必要な場合は、下記に連絡ください。

丹後地域	: 京都府丹後広域振興局 森林管理担当 丹後農業改良普及センター	Tel:0772-62-4317 Tel:0772-62-4308
中丹地域	: 京都府中丹広域振興局 森林管理担当 中丹東農業改良普及センター 中丹西農業改良普及センター	Tel:0773-62-2593 Tel:0773-42-2255 Tel:0773-22-4901
南丹地域	: 京都府南丹広域振興局 森林管理担当 南丹農業改良普及センター	Tel:0771-22-0426 Tel:0771-62-0665
京都乙訓地域	: 京都林務事務所 京都乙訓農業改良普及センター	Tel:075-451-5724 Tel:075-315-2906
山城地域	: 京都府山城広域振興局 森林管理担当 山城北農業改良普及センター 山城南農業改良普及センター	Tel:0774-21-3087 Tel:0774-62-8686 Tel:0774-72-0237

適切な設置 対象獣に合わせて設置！！

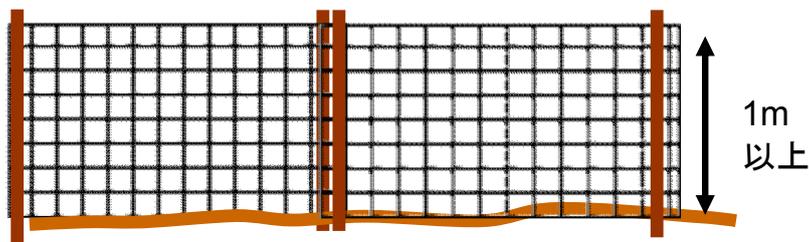
一般的なワイヤーメッシュ柵の例

(設置環境や加害獣の慣れの程度によって、設置方法を工夫する事が重要)

獣の侵入状況をみながら、他の防除資材を組み合わせ、柵を進化させましょう

イノシシ対策

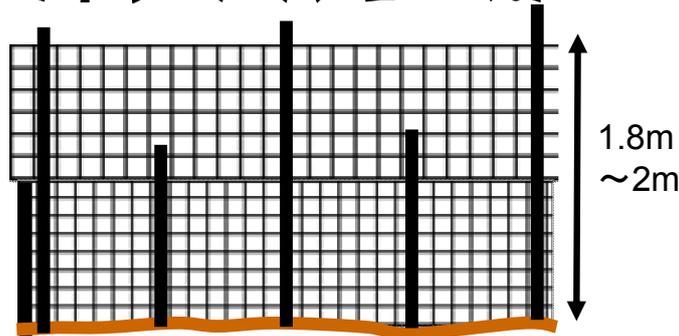
(高さを1mにする場合は、上部約30cmを折り返し「忍び返し」にする)



網目：10cm以下
線径：5mm程度
高さ：1m以上

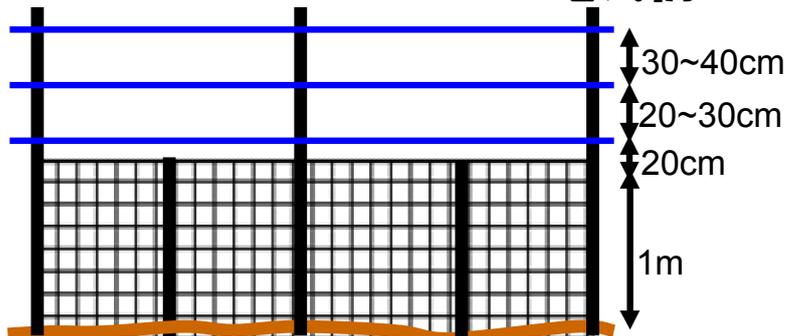
イノシシ・シカ対策

ワイヤーメッシュのみ



下部	上部
網目：10cm以下、 線径：5mm程度	網目：15cm以下 線径：3mm程度～

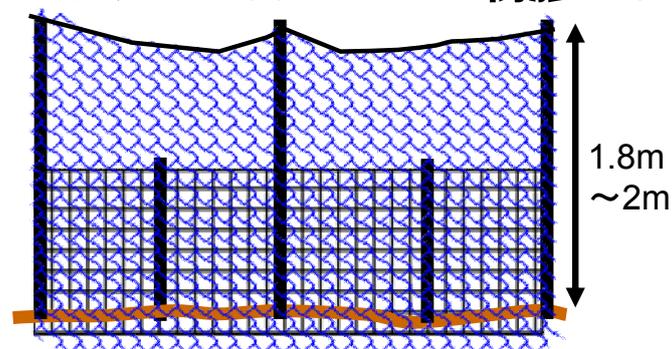
ワイヤーメッシュ + 電気柵



ワイヤーメッシュ	電気柵 (柵線間隔)
網目：10cm以下、 線径：5mm程度、 高さ：1.8m以上、	1段目：20cm 2段目：20~30cm 3段目：30~40cm

(※) 空中では通電しないので、3段目は通電不要です。

ワイヤーメッシュ + 樹脂ネット



(※) 樹脂ネットをワイヤーメッシュの外側 (獣側) に垂らして、下部を固定する。

適切な設置

設置場所の長所・短所

農地際、山際に設置		林内に設置	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ●設置が容易 ●点検が容易 ●侵入に気づきやすい ●資材運搬が容易 	長所	<ul style="list-style-type: none"> ●草やツルの管理が容易 ●総延長が短くて済む
短所	<ul style="list-style-type: none"> ●草、ツルの管理労力が大きい ●ツルの管理不足で、大規模に倒伏することがある ●山を横切る場合より、延長が増加することがある (資材費、管理延長増加) 	短所	<ul style="list-style-type: none"> ●根があると、設置が困難 ●資材の運搬労力が大きい ●獣を囲い込まないように注意が必要 ●日常点検が疎かになる ●大雪・大雨時に倒木等で破損することがある ●地形が複雑で、設置時に臨機応変な判断が必要

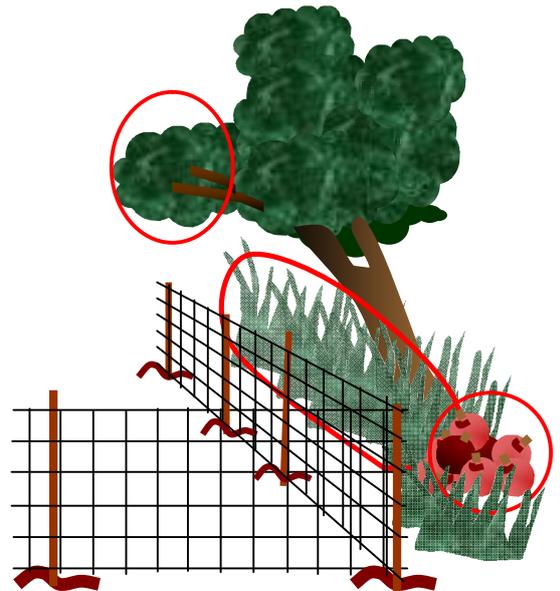
設置環境の整備

管理しやすく、守りやすい柵に！！

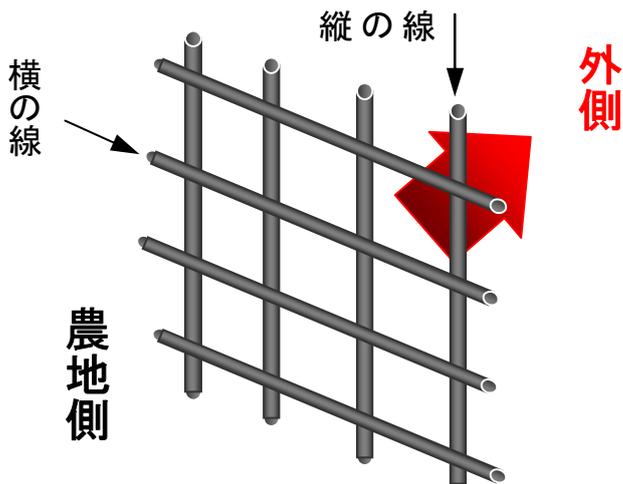
周囲がやぶだと、、、

- 管理作業に労力がかかる。
- 獣が容易に柵に接近する。
- 獣の侵入痕跡を探しにくい。

- 周囲のやぶを整理
- 誘引物（不要残渣、生ゴミ等）の除去
- かぶさっている樹木・枝の除去



資材の使い方 相手（獣）を知って、正しく設置！！

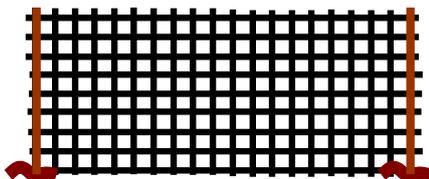


- 縦線を外側（獣側）に設置
(猪は、縦線は鼻で押し、横線はかんで引張る傾向があります)

適切な設置

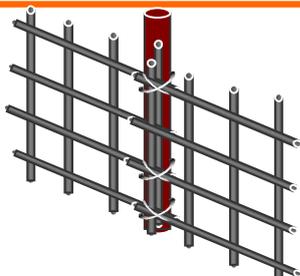
ポイントは、グラグラしないこと！！

支柱の設置



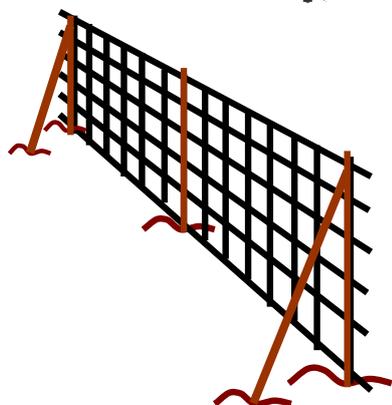
資材と支柱の目安（ぬかるみの無い、平坦な立地の目安）
線径5mm以上，#10cm →支柱間隔 2m以内
線径3.2mm ， #10cm →支柱間隔 約1m

- グラグラしないように、支柱を適正本数使用。
(※ 必要な支柱の本数は、資材や立地環境により変わる)



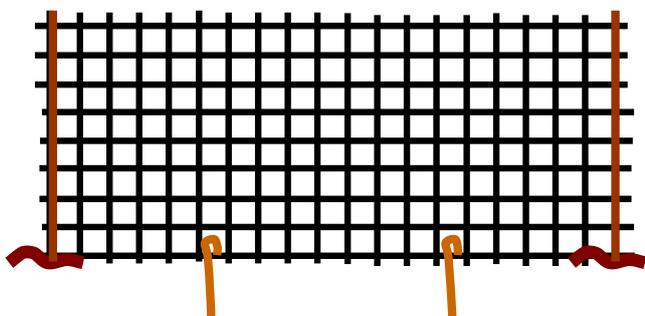
- パネル同士の縦線を支柱に重ね合わせる
- たすき掛けにして固定する
- 下の方を特にしっかり固定する

補助支柱の設置



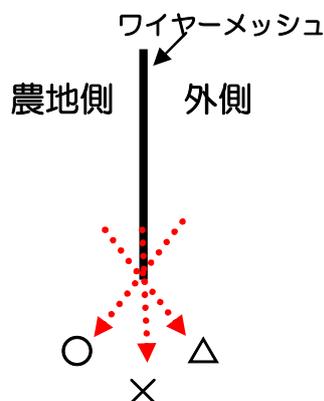
- グラグラしないように、補助支柱を設置
- 柔らかい土壌では、補助支柱を増やす
- 高い柵を設置する場合は、補助支柱を増やす

アンカーの設置



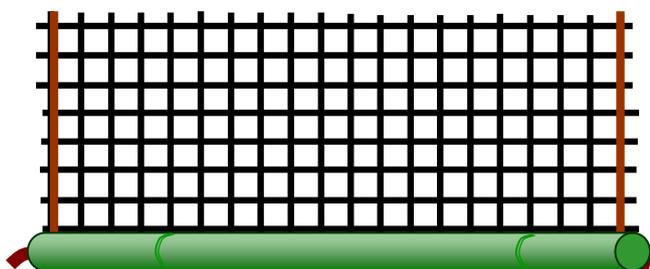
- 1枚のパネルに2本程度を打ち込む
(※ 必要なアンカーの数は、資材や立地環境により変わる)

アンカーを打ち込む向き



- 外側から農地に向かって斜めに打ち込むと、引き抜かれにくい。

下部の補強



- 竹や廃パイプを地面に沿わせて固定すると、下部を強化できる
(※ 丸太を使用する場合は、腐ったり、虫が発生する前に交換する)

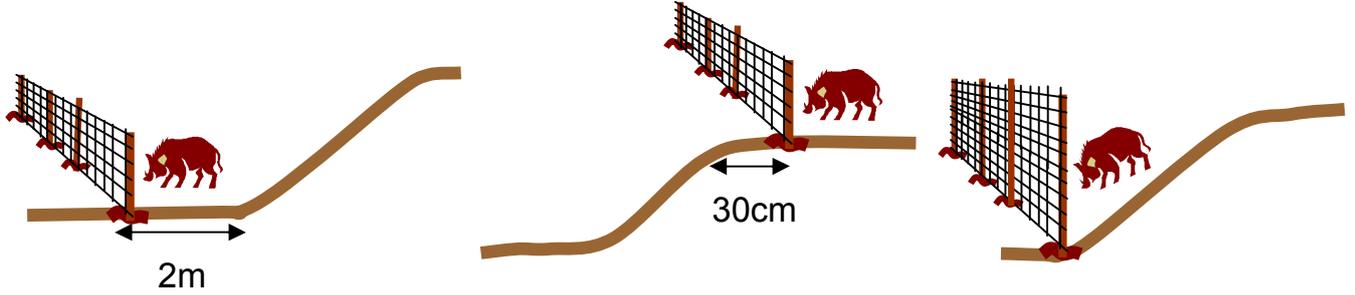
適切な設置 地形と設置方法

崖・山部地形

斜面下部、斜面から約2m以上離して設置

斜面の肩から30cm以上離して設置
(斜面際は崩されやすい)

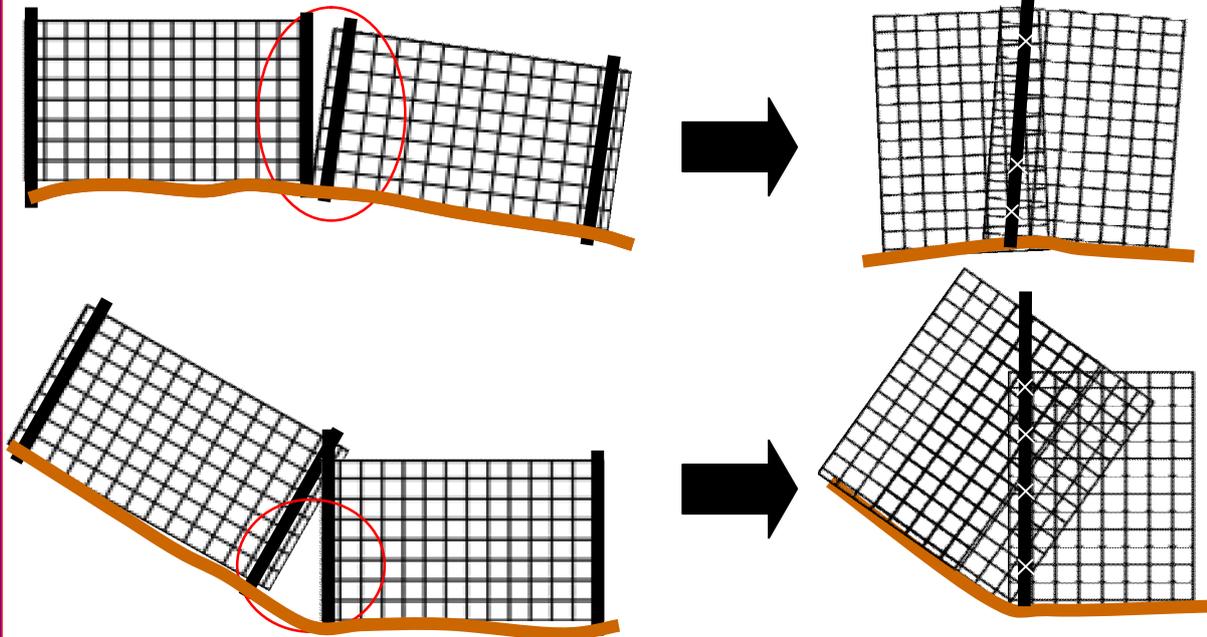
斜面尻では、高さを増やして設置



接合部

× 悪い例
地形が変われば、スキ間ができる

惜しみなく、スキ間なく
パネルを重ねる

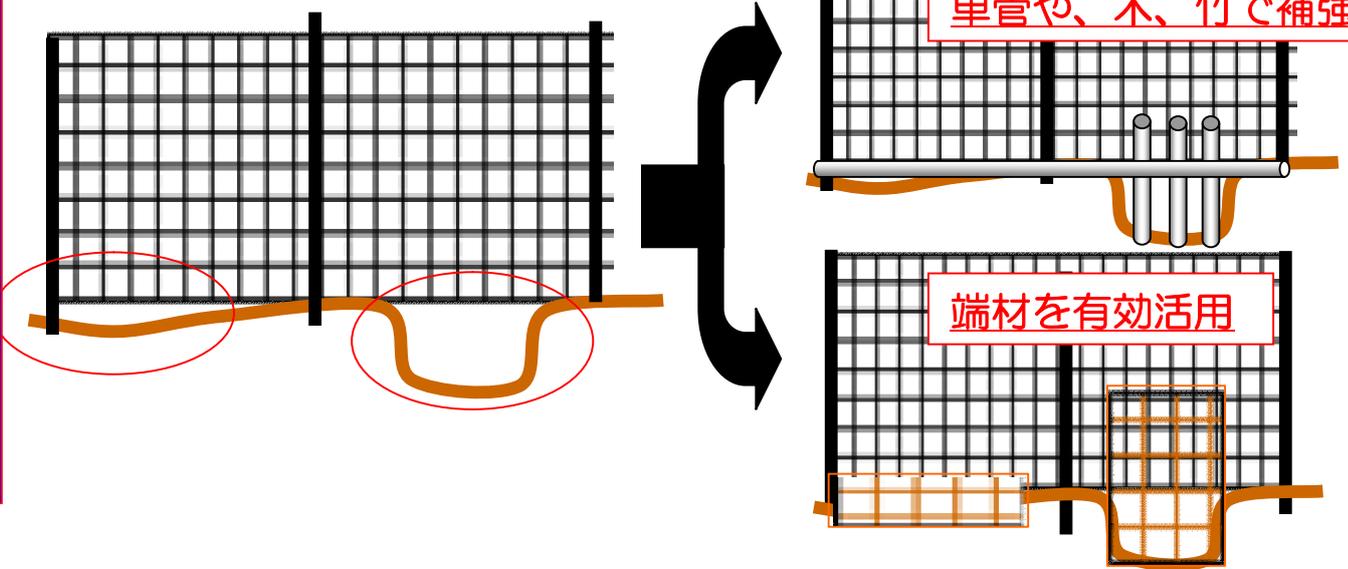


隙間・凹地

× 悪い例
凹地や水路で、スキが生まれる

単管や、木、竹で補強

端材を有効活用



適切な管理

こまめな点検 早期発見、早期対応！！

防除柵の効果を、発揮・維持するために、定期的に点検・管理をしましょう。

防除柵の効果

- 侵入する労力・時間を増やす
 - └ 侵入鳥獣の数を減らす
 - └ 侵入ルートが減らす
- 侵入ルート・侵入方法が分かる
 - └ 侵入に対して適切に補強できる

基本的な管理

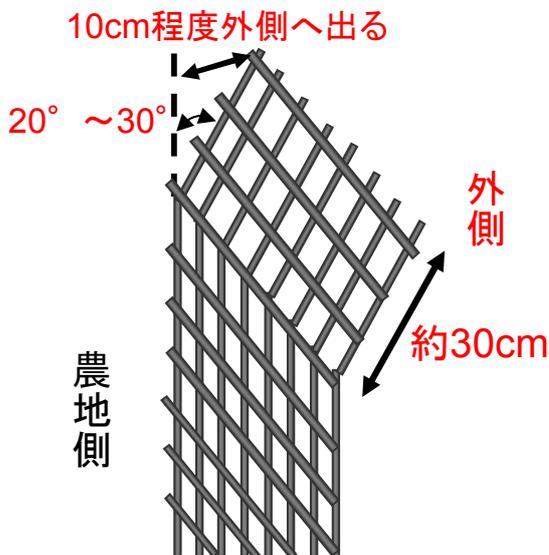
- 侵入を早期発見・早期補強
- 春夏秋は、周辺のやぶ・草・ツルの除去
- 台風の後には、水路と倒木の点検・補修
- 大雨の後には、水路の点検・補修
- 冬が来る前に、ツルの除去
- 冬が終われば、倒木、倒伏の点検・補修

工夫された、ワイヤーメッシュ

イノシシは、立体的な柵が苦手

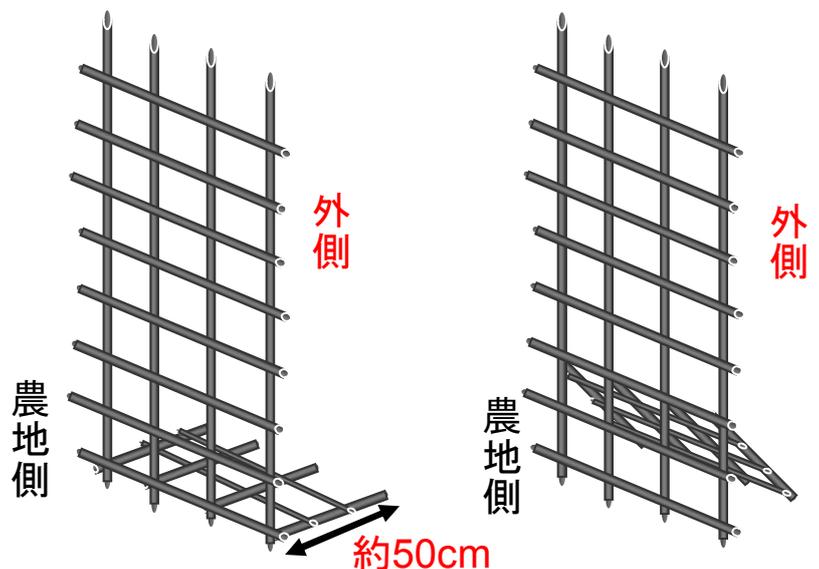
忍び返し

跳び込み防止！！



折り返し

もぐり込み、持ち上げ防止！！



スカート

- ワイヤーメッシュを、外側に斜めに追加
 - (※) 草刈り、蔓切りするには、外す必要がある

- 上部30cm程度を外側へ20~30°折り曲げてしのび返しを作る。
- 曲げすぎると足がかりになるので注意。

- 下部約50cmを外側に折り曲げる。
 - (※) 折り曲げて、必要な高さを維持する